

会 議 録

会議の名称	令和4年度 第1回茨木市文化振興施策推進委員会
開催日時	令和4年9月27日(火) 午前 ・午後) 10時 開会 午前 ・午後) 12時 閉会
開催場所	市役所南館3階 防災会議室
議 長	出口委員(委員長)
出席者	落合委員、川本委員、木村委員、出口委員、雨森委員、飯嶋委員、池上委員 原田委員、平田委員(オンライン参加) 【9人】
欠席者	なし
事務局職員	中井市民文化部長、今西文化振興課長、松本文化振興課課長代理兼振興係長、 川寄文化振興課政策係長、山上文化振興課主査、天野文化振興課職員 【6人】
開催形態	公開
議題(案件)	(1) 文化芸術に関するアンケート調査結果について (2) 文化振興ビジョンの改定スケジュールについて (3) その他
配布資料	(1) 次第 (2) 委員名簿 (3) 文化振興芸術に関するアンケート調査報告書 (4) 文化振興ビジョン改定スケジュール
傍聴人	1人

議 事 の 経 過	
発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
出口委員長	<p>1 開会</p> <p>ただ今から、茨木市文化振興施策推進委員会を開催する。 最初に委員の解囑、委嘱、本日の出席状況を事務局より報告をお願いします。</p> <p>委員の解囑、委嘱について報告する。 今年2月の令和3年度第1回文化振興施策推進委員会をもって、大西委員が辞職されたので、新たに茨木市文化振興財団常務理事の落合委員を委嘱した。 次に、委員の出席状況を報告する。全委員は9人であり、全員出席である。なお、平田委員はリモートである。過半数の出席であり、茨木市文化振興施策推進委員会規則第6条第2項により、会議は成立している。 議事を進める前に、新施設「おにクル」の関係について説明する。現在ホールを含む全館の管理運営を担う指定管理の事業者を選定している。この委員会の中立性を担保するため、指定管理者の選定に影響を及ぼす可能性がないよう、親族等でないか事務局で確認をしている。後日でよいので事務局まで連絡をお願いします。また、そのような方があった場合の対応は茨木市に一任をお願いします。</p> <p>この委員会は「おにクル」の指定管理者の選定に関わるわけではないが、疑惑を招くことのないように、なんらか関係のある方はあらかじめ市の方に申し出てもらえればと考えている。そのことでこの委員会に特段影響があるとは考えていないが、念には念を入れてということである。 本日初めての方があるので一言挨拶をお願いします。</p> <p>茨木市文化振興財団常務理事の落合でございます。大西に代わり頑張って参りますので、よろしくお祈いします。</p> <p>2 議事</p> <p>では、これより案件の審議に入る。次第に沿って議事を進めていく。終了は正午頃を予定している。 案件について事務局から説明をお願いします。</p> <p>本日は2件の案件がある。1件目は「文化芸術に関するアンケート調査結果について」、2件目は「文化振興ビジョンの改定スケジュールについて」の審議である。</p>
今西文化振興課長	
出口委員長	
落合委員	
出口委員長	
今西文化振興課長	

議 事 の 経 過	
発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
今西文化振興課長	(1) 文化芸術に関するアンケート調査結果について まず1件目について担当者より説明する
天野文化振興課職員	【「本市の文化振興施策の現状について」説明】
出口委員長	今の説明について、意見や感想はあるか。
飯嶋委員	アンケート結果では、音楽が突出していると思う。音楽やイベントに関して文化芸術に対する場所に配置される職員の方について、専門性の高い人材を配置することが大事なのではないか。 私どもも色々研究をさせていただいて、愛知県長久手市は市職員の専門分野の引継ぎが非常にうまくいっている。催し物としてもすごくいいものをやっているという説明があった。説明なので実態はどうか分からない。 市の音楽、美術、演劇、映画などの文化活動に関しての情報発信は、主に広報が多いが、広報は文字が多い。イラストを入れるなり、普通のチラシの大きさを挟み込むことは不可能だとしても、写真で1ページに4枚から6枚とか、一目で見てわかるような構成にしてみたらもう少し関心が湧くのではないか。 兵庫県立芸術文化センターの場合は、非常にお金はかかるがチラシを30枚程度、定期的に送っており、その中で1つでも来てくれたら採算が合うということを知った。茨木市でそれを広報に挟み込むと膨大な量になるので難しいと思うが、刷り込みでイラストのような形にできれば、音楽以外にもこんな魅力的な催しがあるということを知ってもらえるのではないか。 コミュニティセンターの利用度と催し物の関係について。新しい施設のホールは茨木市の灯台だと思う。ここからまち全体が照らされて、公民館の活動に光を当てられるかもしれない。しかし各公民館の業務がバラバラで、鍵一つとっても取りに行く時間帯もバラバラで統一して欲しいとの声があがっている。いろんな分野の人がそれで行きにくくなっているの、そういったことも含めもう少し利用しやすくして欲しい。 音楽の希望者が多いが、美術、演劇にしても縦割りになってしまっていると感じている。理想とすれば芸術監督のような方を置いて、バランスよく催し物を開いていけるようになると、全体の底上げになるのではないかと思う。芸術監督を置くというのは費用もかかるがご検討いただきたい。
出口委員長	この後も、審議はあるがアンケートについて何か、ご質問、ご意見はあるか。

議 事 の 経 過	
発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
雨森委員	若い世代で音楽とゲーム、映画が高かったと思うが、音楽について言うとジャンルの話がある。文化芸術としての音楽とエンターテインメントとしての音楽をどう分けるのか。アンケートを取る側として整理していく必要があると思うが、このアンケートではその部分が見えないように感じた。
出口委員長	他何かあるか。特にコロナ時期、SNSの発展がとても急激なこの時期のアンケートは今後貴重な資料になっていくと思う。
平田委員	アンケートは大体どこでとってもこんな感じになると思われる。ご指摘の通り、音楽は幅が広いので数字としては集まるというところ。実際には新しい会館のニーズの掘り起こしがある。ポピュラーなものについてはある程度大きな劇場でないとできないので、それを茨木市でやる必要があるのかといった要素もある。アンケートに振り回されずに、市民の声を聞くことは大事だが、細かく見ていった方がいいように感じる。
出口委員長	<p>この数年本当にいろんな動きがあるので、このアンケート結果についても、今後時系列でみていくといろいろな変化があるように思う。</p> <p>とりあえずアンケートはこれぐらいにしておいて、茨木市の文化施策の方向性を議論するにあたって、新施設「おにクル」が大きな役割を果たしていくことになると思われるので、改めて「おにクル」での文化事業の実施体制について事務局からご説明いただきたい。</p>
今西文化振興課長	「おにクル」での文化振興の実施体制について、まずホール部分の指定管理者については民間事業者から指定管理者を決定する。メリットとしては民間事業者がこれまで積んできた経験、ノウハウを活かして、ホールの運営をしてもらいたいというところ。一方、本市には文化振興財団があり、その強みとしては、地域の方々これまで連携して事業を行ってきたというところ、こういったところについて一から民間事業者が地域の方と関係性を作ってそこからということでは時間がかかるというところ、財団の強み、民間事業者の強みをそれぞれ活かして連携して文化事業を進めていただきたいと考えている。
出口委員長	極めて重要な方向転換になるかと思う。従来は市と文化振興財団という関係の中で行ってきた文化振興事業を、新たに民間事業者が入ってやる形になったので大きく変化していくことになりかと思う。そのこととアンケートの結果を踏まえて今後の「おにクル」での文化振興についての意見や感想をお願いします。

議 事 の 経 過	
発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
木村委員	<p>音楽も幅が広いが、美術もコンテンポラリーから普通の油絵まで幅が広いので、これをどう市民にすすめていくか。あまり堅くターゲットを絞るわけにもいかないので非常に難しい。</p>
出口委員長	<p>研究分野は基礎研究と応用研究に分けることが通常になっているが、昔はなかった。色んな過渡期を経て、理論物理学や数学は基礎研究、それを応用して新しいものを作っていくのが応用研究と言われている。文化芸術の分野も従来のデッサンから始まった美術の話、音楽もしっかりした楽譜に基づいたものとか、演劇も発声から、演技もしっかりしたシナリオ・演出に基づいたものから、次々と派生して幅広くなっている。</p> <p>例えば、ノーベル文学賞ですらボブ・ディランが受賞するようになったので、何をもって文学と考えるかも色々変わってきていると思う。</p>
雨森委員	<p>何に絞って言うかまだまとまっていないが、さっきもおっしゃっていたようにせっかくホールができるので芸術監督をちゃんと置いて方向性を示しながら運営していけるとよいと思う。数年前の計画段階からこの意見交換をされていて期待していたことである。</p> <p>「おにクル」はホールだけでなくいろいろな要素が含まれると聞いている。ホールだけではなく、館全体でどのように有機的なつながりを作りながら運営していくかは大きな課題である。それがなければ、「おにクル」は機能しないのではないかと思う。</p>
出口委員長	<p>ありがとうございます。おそらくこの構造変化で一番影響を受けるであろう、文化振興財団の落合委員いかがか。</p>
落合委員	<p>財団としてはどうか私としては、新しく決まる指定管理者と、どこまで同じ覚悟をもって市民のための文化芸術振興活動ができるかが肝だと思っている。もちろん指定管理者とだけでなく図書館、市民活動センター、子育て広場など含めて「おにクル」ということなので、縦割りにならず連携していきたい。</p> <p>また、育てる広場ということなので、指定管理者や財団がこれをやりたいというのではなく、市民がこれをやりたいです、どうしたらいいですかというのを、それはできない、やってはいけないというのを、いかに言わずに、だったらこういったやり方ができますよ、寄り添った形で、市民の創造活動を支えていくことが肝かと思う。</p>

議 事 の 経 過	
発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
川本委員	<p>私はずっと茨木市民であるが、小学生の頃、体育館で開催された芸術鑑賞会で初めて落語を見た。当時の私は、落語はおじいちゃん、おばあちゃんが見るものだという印象があり、つまらなさそうだと思っていたが、聞いたらとても面白く、今でも心に残っている。</p> <p>子どもたちが文化に触れるには、敷居を低くする何かきっかけが必要。学校という場所は子どもたち誰もが授業を受けられる場所なので、「おにクル」で芸術鑑賞会を行うとか、「おにクル」で芸術に関する教育を受けるといったことができればその敷居はどんどん低くなると思う。</p> <p>今の小学校・中学校は非認知能力を大事にしているとうたっているが、文化芸術はまさに非認知能力を育てるのいうってつけだと思う。是非「おにクル」と連携をとって、子どもたちを「おにクル」で育てるということをやってもらいたい。なかなか難しいことだと思うが、全小・中学校の生徒が「おにクル」で何からの文化芸術活動に携わってほしいと思う。</p>
原田委員	<p>民間の指定管理者がやっていくということと、文化振興財団がこれまでやってきたこととの大きな違いというのが分からないので、教えていただきたい部分がある。</p> <p>「おにクル」に関して、先日設計の伊東豊雄氏と名和晃平氏のトークイベントに参加した。施設の中のイメージが、とても開放的で、そこには、親子も手を繋いで来るし、年配の方々も本を読んだり癒されたりと、全ての世代が来られるところになっている。駅前とかは学生や若者が多いと思うが、「おにクル」は全世代が集まって来る開放的な場所になると思う。そこで子どもたちが絵を見て感じるものがあるとか、音楽の流れているもので感じるものがあるなど、小さいころからそこに来て大人になっていけば、教育の場として良い場所になると思う。それを専門分野の方が作っていってもらえればと思う。</p>
出口委員長	<p>いまご質問があったが、指定管理者が入ることによってどう変化があるのか分からないということで、市の方からもう少し説明をしていただきたい。</p>
今西文化振興課長	<p>現状、市民総合センター及び福祉文化会館で、指定管理者制度の導入をしているが、指定管理者の業務は施設の管理のみである。その文化事業については、指定管理者の業務ではなく、文化振興財団がクリエイトセンターを本拠地として、文化振興財団あるいは市が主催、共催して文化振興事業を展開している。</p> <p>「おにクル」では文化の事業自体を指定管理者に任せて、これまで市と両輪の関</p>

議 事 の 経 過	
発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
原田委員	係で文化事業を進めてきた、市と近い文化振興財団ではない、民間の事業者を選定してそこに指定管理を任せるとするのはこれまでにはなかったことである。
今西文化振興課長	具体的に何かわかりやすいことで、どういうことが可能になるとかはあるか。
原田委員	何が可能になるというか、期待をしている部分であるが、これまで市と文化振興財団が近い関係でやってきたところに、「おにクル」はクリエイトよりもホールの規模も大きくなるので、これまでにはなかったホールを民間のノウハウで色々な事業を展開して行っていただきたいところである。
原田委員	それは、これまで文化振興財団もやってきたことかと思う。興行をするコンサートをするということか。民間の指定管理ではそれができるといことか。
今西文化振興課長	おっしゃるとおりであるが、1,200人規模のホールなので、堺にあるような2,000人規模のホールに比べると、商業的な、興行ベースのイベントを中心に行っていくということは、収益の関係で難しい。1,200人規模のベッドタウンにできるホールをどう展開していくかということについては、まだまだ検討の余地があるところである。
出口委員長	完全に民間の指定管理者さんに運営を任せてしまうということですから、だいぶドラスティックに変わってくると思われる。その指定管理者が文化振興財団とどのようにお付き合いするかは未知数ということになる。
落合委員	前回の委員会で話題になっていた文化庁などの補助金の活用について、財団ではこれまでも補助金を活用してきている。今後、民間が入ることで、取り合い・バッティングが発生しないようにうまくやっていきたいとは考えている。市も含めてうまく調整できる関係性を作っていきたいと考えている。
出口委員長	可能性としてその指定管理者に文化振興財団が手をあげることはあるのか。
落合委員	文化振興財団は新たな指定管理者と事業の連携などについて協定を結び、共に文化振興に携わることを想定しているのので、指定管理者に応募することはない。
出口委員長	先ほど言われたのは、その指定管理者の選定がこれから別組織で行われるので、そこは中立性が大切であるので、我々は関係ないが、指定管理者に手をあげるよう

議 事 の 経 過	
発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
池上委員	<p>なところと親戚であるといったような方があれば予め知らせておいた方が安心であろうということを事務局が冒頭に言っていた。</p> <p>では次、池上委員いかがか。</p> <p>グラウンドが芝生になって、オープンキッチンもできるなど、開放的になった印象を持っている。若い世代もゆっくりされているのを見るとこれまでと変わったという印象を持っている。「おにクル」活動を展開されるということで、民間事業者が入ることで、新しい風が入って企画力を発揮していただけるのを期待している。</p> <p>このアンケート結果を見ても、芸術に対するニーズが茨木市民は高いと思う。参加頻度が低いということなので、せっかくできる「おにクル」が発展していったらいいと思う。</p>
飯嶋委員	<p>「おにクル」に関しては、茨木童子がモデルになっていると思うが、鬼は鬼だが人の気持ちを大事に、親を思う気持ちとかそういう内容だと思っている。それを分かりやすく、若手の音楽や演劇を通じて浸透していけばいいと思う。</p> <p>生活、人生においては音楽的なもの演劇的なものは、若い人材には育成にもなり、いじめの対策にも一役買っているのではないかと思う。良い形で市民に浸透していけばと思う。</p>
平田委員	<p>芸術監督を引き受ける立場でいろいろな自治体の文化施策のお手伝いしてきたが、大事なことは設置者の側が文化施設のミッションを明確にすることである。私は芸術監督の仕事のプロ野球の監督に例える。ジャイアンツのように毎年優勝しなければいけないところや、広島カープのように若手を育ててほしいとか。それぞれオーナーからのミッションが課せられて、それに適した監督を選ぶ。市民のニーズは様々で、今出てきた教育や、経済波及効果で千人以上のホールであるので駅前や商店街が潤うこと、あるいは観光など。それを一つに絞る必要はないが、「おにクル」は何をミッションとするのか。それによって芸術監督を置くのか、置かないかが決まると思う。</p> <p>また、創造活動をどこまでするのかというところ。これは先ほど市から説明のあった市民の創造活動ではなく、アーティストが本格的な創造活動をするところまで踏み込むかどうか今回の劇場のミッションを決める時の大きなポイントになるかと思う。先ほどから名前の出ている、文化庁や地域創造から大きな助成金を取るというのなら創造活動をして、芸術監督なりの専門家を置いていないと、評価されないし、補助の対象にもならない。リスクを取って補助を取りに行くか、そこまではしないかというのは市の判断になると思う。</p>

議 事 の 経 過	
発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
出口委員長	<p>創造活動をするのであれば、芸術監督は必要なところであるが、直近で一番話題になっているところでは、岡山市が大きな劇場を作る。ここも色々議論があった結果、創造型の事業はして年に何本かの作品は作るけれども、芸術監督はおかずに、館長にコンサルタント会社のプロデューサー能力のある専門家を据えた。まずミッションがあってその後人事を決めるのが本来かと思う。</p> <p>本市でもミッションを決めてから指定管理者を決める方がよかったが、それはスケジュールの問題もあるので、今からでもできるだけそこは詰めていただけるとよい。</p> <p>貴重なご意見ありがとうございます。民間に投げたら全てうまくいくということではないということだと思う。</p> <p>私からアンケートに関する質問をしたい。学校にアンケートするというのはこれまでもやっていたということ。学校でアンケートに答えていて、学校で答えると多少バイアスがかかるが、92ページを見ても「マンガ、アニメーション」や「電子機器を使った芸術」がとても高くなっていて、15ページの情報の入手方法を見ても、SNSの世代別の数字の大きな違いが明確に出ていて、この数年でこの辺は激変してくるのではないだろうかと思われる。このコロナの期間を経て、「おにクル」のような人と人が出会う所に対して、抑圧されていたところがあるので、ものすごくインパクトがあると思う。同時にこのように全く新しいものが出てきていることを両にらみにしていく必要がある。我々の世代はこういったものの関心には多様性がなくてみんな大体同じものを見ていたが、今はゲーム、アニメーションもバラエティがあって、私も日々勉強しているが追いつかない。</p>
飯嶋委員	<p>SNS等に関して、私たちは現場まで行って音楽を演奏しているが、生の演奏で、出た音を体で受け止めて反応するというのは大事。落語も現場に行くと非常に面白いがテレビでは同じ人がやっても全然面白くない。そういう意味では生の演奏を届けられるようにできたらと思う。</p>
出口委員長	<p>その重要性は本当にそうだと思う。2歳、3歳からパソコンを触っているようなデジタルネイティブの人達が出てきているのでその事も視野に入れていかないといけないかと思う。</p>
飯嶋委員	<p>個人的にSNSで見たり、何人かで見たりすることもあるかもしれないが、大勢でみてそれで感じてという、一人だけの世界に閉じこもらずみんな感じてほしい。</p>

議 事 の 経 過	
発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
出口委員長	<p>フェイストゥフェイスの重要性がますます大きくなってくると思う。 アンケート調査結果についての審議は終了して、文化振興ビジョン改定スケジュールについて説明をお願いします。</p>
川寄文化振興課政策係長	<p>(2) 文化振興ビジョン改定スケジュールについて 【「文化振興ビジョン改定スケジュールについて」説明】</p>
出口委員長	<p>ご意見をお伺いしたいが、その前にご質問はあるか。 もう少し整理していただきたいのだが、今「おにクル」という大きな話の議論があって、次に文化振興ビジョンという一般的なものの話のスケジュールがあったので、その関係が分かりにくいように思う。先ほど平田委員からご指摘のあった「おにクル」のミッションであるとか、芸術監督を置く、置かないということについてはどこでどのように議論をするのか。この会議では何をどこまで議論するのか明確にしていきたい。</p>
今西文化振興課長	<p>「おにクル」のミッション及び芸術監督の2点についてであるが、まず芸術監督については今庁内でも議論をしているところである。この場で意思決定いただくのは委員会の性質とは違うと考えているが、この場におられる方からご意見をいただくのは市の意思決定をする際には大事だと考えている。委員会で色んなご意見をいただいて、それを我々の検討材料とさせていただきたい。どのタイミングで市の意思決定として持っていけるかについては、今はちょっとお答えできないが、「おにクル」のミッション、芸術監督というのは茨木市の文化施策の方向性を考えるには大事な材料であるので、ビジョンにどこまで書き込む内容かという項目としては違うかと思うが、ご意見としてはいただければと考えている。</p>
出口委員長	<p>分かりやすくお答えいただきありがとうございます。ここからは文化芸術基本法に基づいて策定する文化振興ビジョンの改定スケジュールについて議論するが「おにクル」のミッションや、今まで出てきたような話についても、ご意見としてご発言頂いて結構ですので、また一人ずつご意見をいただきたい。 飯嶋委員からよろしいか。</p>
飯嶋委員	<p>先ほど「おにクル」のことで、茨木童子とのつながりについて発言したので、結構です。</p>

議 事 の 経 過	
発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
池上委員	<p>団体・市民にヒアリングをして意見を募るとのことだが、どういう目的か。どのようなワークショップをするのか。</p>
出口委員長	<p>では、文化振興ビジョンとは何かということについて、もう一度わかるようにご説明いただきたい。「おにクル」の話が大きすぎて、こちらの方が大事な話なのだが、なかなか頭の切り替えができない。</p>
川寄文化振興課政策係長	<p>「おにクル」においても文化振興をするが、今まで市と財団で担ってきた文化振興を「おにクル」で新しい民間事業者が入って事業を行う。それぞれが別々のところを目標にはいけないので、この文化振興ビジョンにおいて3者を中心として文化芸術団体等も含めてどこを目指すかというところを、この文化振興ビジョンで方向性を示していくというのがこの「文化ビジョンの改定」というところである。</p> <p>その文化振興ビジョンを作るにあたって、市民や文化芸術団体の意見を多く聞いて今どういったことが課題なのか、どういったことができているかを把握した上で進めていかないと、皆さんが望んでいる方向にならないということで、色んな意見を集めて、こういった審議会も含めて議論をして、ビジョンを作っていきたいと考えている。</p>
池上委員	<p>よくわかりました。ありがとうございます。</p>
出口委員長	<p>先ほど平田委員から「おにクル」のミッションが大事だという話があった。また、次に指定管理者についての話があった。指定管理者の決定と文化振興ビジョンの策定スケジュールの関係はどうなっているのか。</p>
川寄文化振興課政策係長	<p>現在、指定管理者候補者の募集が終わっており、11月頃に外部から招いた選定委員のもと、選定委員会を開催し、候補者を決定します。その候補者の指定の可否についての議案を12月の議会に提出し、そこで指定の議決が得られれば、決定となる。本委員会との関係でいうと次回、本委員会を開催する頃に決まることとなる。</p>
出口委員長	<p>そうすると、ミッションというのは必ずしも明確でない形で裁量があるような形で募集している。指定管理者がどのような方向性を出すのかということも文化振興ビジョンに影響してくる可能性があるということか。</p>
川寄文化振興課政策係長	<p>その通りである。</p>

議 事 の 経 過	
発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
飯嶋委員	指定管理者の募集は何社かに声をかけているのか。
川寄文化振興課政策係長	公募であるので、こちらから声をかけるということはない。
出口委員長	次に原田委員、いかがか。
原田委員	特にないが、10月から12月にかけて行うワークショップでどんな意見が出るか楽しみである。その意見を踏まえて、我々もどう対応するか決める必要がある。
出口委員長	川本委員、いかがか。
川本委員	何点か質問がある。市民ワークショップについて、属性ごとに20名程度とあるが、中学生は1校から20名なのか。また、若者についてはどのように集めるのか。
川寄文化振興課政策係長	今のところ1校に絞って、そこで集まった20人と考えている。若者は広報誌等で募集しようと考えている。
川本委員	数日に分けてそれぞれ実施するイメージか。
川寄文化振興課政策係長	その通りである。
川本委員	あと、3月までのスケジュールについてであるが、3月に第3回委員会を実施した後、4月1日から施行ということではないのか。
川寄文化振興課政策係長	今年度の3月までで素案を作成し、内容については引き続き本審議会で議論いただき、完成は令和5年度の2月頃を予定している。
出口委員長	「おにクル」のオープンはいつか。
川寄文化振興課政策係長	来年の11月を予定している。

議 事 の 経 過	
発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
出口委員長	そうすると、「おにクル」がオープンした後に、文化振興ビジョンの最終案が出来上がるということか。
川寄文化振興課政策係長	その通りである。
落合委員	3月に素案が出来上がるということだが、委員会の数日前にあらかじめ素案を頂いて、読み込んだうえで討議することになるのか。
川寄文化振興課政策係長	その通りである。素案となるとボリュームもあるので、あらかじめ送付して、内容を確認してもらったうえで審議をお願いする。
出口委員長	雨森委員、いかがか。
雨森委員	茨木市の現状の課題抽出がビジョンの作成に重要な要素だと思う。また、「おにクル」のミッションの前に、茨木市のビジョンがあると思う。そのあたりはチグハグにならないように気を付けてもらいたい。
出口委員長	木村委員、いかがか。
木村委員	文化振興ビジョンということになると、若者相手に新しいものを打ち出していこうとするが、人口の分布を考えると年寄りの居場所も重要である。私は生涯学習の研究をしているが、中央図書館には彫刻も陶芸もいい設備がある。ただ、ちょっと行きにくいし、知らなかった。若い人のことも大事だが、お年寄りの居場所も大事である。今のお年寄りは元気なので、何かやりたいという人も多い。高齢者は人口分布多いので、高齢者が生き生きとすることが、市の活性化につながるのではないか。
出口委員長	私も年を取ってからネット社会が楽しくて仕方ない。動かなくても、あちこちのいろんなものが見られるので、楽しくてしょうがないが、デジタルディバイドの問題もある。フェイストゥフェイスで出会う場所も大事である。
飯嶋委員	まだ体が動くうちのお年寄りにもチャンスをとという話があったが、文化振興財団とタッグを組んで、介護施設など演奏会に来られない人のために年間30回の予算

議 事 の 経 過	
発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
出口委員長	<p>で、こちらから出かけて演奏会をやっている。4人ぐらいのボランティアでやっており、少しずつそういう方にも提供をしている。</p> <p>各芸術団体の方に伺いたいが、高齢者で現役を引退した後、高校時代に演劇部だったとか、美術・音楽をやりたい方が、改めて活動するケースも増えているのではないか。</p>
飯嶋委員	<p>コミュニティセンターのようなところを使って活動されている方はいる。私の周りでは、英語に堪能な方がいらっしゃるが、定年を過ぎたので何もしなくていいとおっしゃる方がいる。非常にもったいないと思う。ちょっとした講座を持つなど、そういう方が出てこられるような環境ができないかとずっと思っている。</p>
出口委員長	<p>平田委員、いかがか。</p>
平田委員	<p>私自身、オープニングのところに関わることが多いが、問題の本質は大きな公民館ではなく、劇場をつくるということにある。専門家の先生方にはもう釈迦に説法ですけれども、集会施設ではなく、劇場を作る。これまで活動してきた文化団体にも意識改革が求められる。施設を利用して発表会をするというのが公民館、集会施設の役割だったが、伊藤豊雄さん設計の劇場をつくるわけなので、大きく言えば世界の文化に貢献する、人類の財産となるような作品を作る、茨木市だけではなく他からも人を呼ぶというミッションが通常は課せられる。</p> <p>私がよく申し上げるのは、これまで素晴らしい活動をなさってきた文化団体の皆さんのパワーで若い方や子どもたちの育成に協力していただくことが大事だと思う。国が何をしてくれるかではなく、自分たちが国に何をできるか。要するに、文化団体の皆さんは今まで施設の利用が中心だったが、新しい劇場を通じて子どもたちの育成など、自分たちがどのような貢献ができるのかを考えるという意識改革が求められる。市民活動と「おにクル」で起こる創造活動を、どううまく棲み分けかがビジョンに書き込まれ、その中で「おにクル」のミッションがはっきりしてくるのが本筋ではないかと思う。</p>
出口委員長	<p>本筋はわかるが、ビジョンの方が後にまとまるということなので、どうすべきか。</p>
平田委員	<p>市の説明も、自治体の職員としては結構大胆な発言だったと思う。スケジュールが錯綜しているという現実を受け入れないといけないので、うまくそのビジョンと</p>

議 事 の 経 過	
発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
出口委員長	<p>ミッションと指定管理者のやりたいことを当時並行で進めていくしかおそくないだろう。</p> <p>ただ、現行のビジョンがあるので、ある程度方向性があり、それに基づいて粛々と進んでいる。本来は改定後の文化振興ビジョンに基づいて、「おにクル」の方向性を定めていくものであると思われるが、いずれにしても議論ができるのは今のみであるので、ご意見があればお願いしたい。</p> <p>全体を通じて何かあるか。今後の茨木の文化を考える上で、この数か月は大変重要な時期であるので、遠慮なくご意見いただければと思う。</p>
飯嶋委員	<p>今現在行われている目に見えない、アンケートには載ってない部分がたくさんある。先ほどの介護施設の問題についてもそうだが、いろいろ知っていただいて一つにまとめていただくという形でできたらいい。</p> <p>また、茨木市を全国の人に知ってもらうには、インターネットの配信は非常に大きな効果があると思う。全国で知られるためには全日本・日本と名付けたコンクールをやるといいのではないか。全国と名付けたコンクールで成功しているところと言えば、滋賀県高島市の国際フルーツコンクールなどがあるが、それで名前を知ってもらえるというメリットがある。コンクールをするためにはお金がかかるが、隣の摂津市ではカメラコンクールをやっていて、もう30年になる。ただ、日本と名前がついていないので、やや知名度が低い。そういったことも考えてもらいたい。</p>
出口委員長	<p>前半のアンケートに介護等が入っていないという指摘については、事務局が悪いということではなく、この委員会で議論したことであるので、何かご不満があるとしたら委員長である私の責任と思っている。それから後半のことについては、現在でも全国のコンクールはあるかと思うが、いかがか。</p>
今西文化振興課長	<p>川端康成の文学賞を作り、文学作品を募集している。</p>
飯嶋委員	<p>それはどれぐらいの範囲に募集をかけているのか。</p>
今西文化振興課長	<p>申し込みについて、特に制限はかけていない。</p>
飯嶋委員	<p>本日チラシを持ってきたが、カメラコンクールは全日本、日本と名付けていないので、摂津市の人だけというイメージがある。こういったところも参考にしてもらいたい。</p>

議 事 の 経 過	
発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
今西文化振興課長	もう一つ申し上げますと、コロナ禍で始めた取組だが、映像芸術祭というイベントを始めた。短編の映画作品を募集し、募集する年と市民の方に見てもらおう年というサイクルで行っている。今年度は第2回の募集をしており、募集にあたっては、全国どこからでも応募してもらえるようにしている。
飯嶋委員	わかりやすく周知できるとよい。
出口委員長	今のようなご意見があったことについては、議事録に残していただきたい。今後指定管理者が、企画していくということになるのか。
今西文化振興課長	「おにクル」で実施するものについては、今後指定管理者が企画することになる。
出口委員長	今後「おにクル」で実施する際には、この委員会でこのような発言があったことは参考にしてもらえと思う。 他に何かご意見はあるか。
雨森委員	高齢者の方の居場所という話があったが、埼玉の芸術劇場の方で、ゴールドシアターという、高齢者の方を集めて、プロの演奏家と一緒に舞台作品を作っていくワークショップがある。コロナ禍でなくなってしまったが、世界中のゴールドシアターを集めた演劇祭を開催されており、一度ワークショップを拝見したが、何回も長期間のワークショップをして、発表があってというような活動で、アクティブシニアをつくることにつながっていると感じた。 また、子供、学生、高齢者、それぞれに向けたプログラムもあると思うが、分けていろいろな世代が緩やかに集まれるような場も作っていけるといいと思う。
出口委員長	ありがとうございます。前後して申し訳ないが、市民ワークショップと文化芸術団体へのヒアリングとあるが、ワークショップは対面を想定しているとのことだが、ヒアリングについては個別に行う予定か。
川寄文化振興課政策係長	1箇所集まって実施する予定である。
出口委員長	承知した。この時は「おにクル」については議論せず、文化振興ビジョンの話だ

議 事 の 経 過	
発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
川寄文化振興課政 策係長	<p>けということか。</p> <p>新しい文化振興ビジョンは「おにクル」の影響もあるので、「おにクル」の状況を説明した上で、それを踏まえて議論をしてもらう予定である。</p>
出口委員長	<p>他に何かご意見やこの際言っておきたいことはあるか。</p>
川本委員	<p>現行のビジョンを見ているが、茨木には様々な歴史や貴重な文化財があり、そういった部分についても、ビジョンでは触れられているが、この場では議論していない。アンケートの中にも文化財の話や川端康成記念館のことが書かれているが、若い世代が茨木市の歴史文化をどう知ってもらい、継承していくのか。市のあらゆるところに茨木童子のイラスト、石像があり「茨木といえば赤鬼」というイメージは小さいころからあったが、実際に茨木童子の作品を知ったのは恥ずかしながら大人になってからである。また、川端康成が小説を書いていることは知っているが、読んだことがなかった。20代になるまでに、知ってもらうためにはどうしたらいいのか。隠れキリシタンの話もそうだが、茨木にこんな歴史があるということを幼少期の頃は知らなかった。茨木にこんな歴史があるということを子どもたちにも知ってもらいたい。</p> <p>例えば、社会見学等の学校行事で、川端康成記念館などに行っているかどうかは分かるのか。学校単位で行っているのかが気になる。個人であれば、興味がないと行かないので、知るきっかけづくりを学校単位で行っているのか。</p>
原田委員	<p>観光協会としては、観光ウォークを実施している。広報いばらきにルートを載せて、月に1回実施している。観光協会にいるガイドがついて、そのルートの歴史・文化をすべて説明しながらコースを回る。去年からガイドが茨木市認定という形になり、隠れキリシタン、川端康成など下見に行ってコースを作っている。他の地域からの参加者も多く、現在はコロナで縮小しているが、リピーターも多い。ただし、年齢層が高い。半日でも勉強になるので、若い人たちに来てもらいたい。我々も大学に呼び掛けるなど、触れ合うきっかけを探して、頑張っているところである。</p>
川本委員	<p>子どもと行くと歩くのが難しいと思い断念していたが、いつか参加したい。</p>
出口委員長	<p>アンケート報告書の78ページだが、文化芸術が連携することを希望する分野としては「まちづくり」がトップになっている。今年の4月に博物館法が改正になり、</p>

議 事 の 経 過	
発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
平田委員	<p>社会教育施設と位置付けられた博物館に観光の要素を取り入れるような形になったり、従来非営利の組織でないと博物館法の登録博物館になっていなかったが、企業が設立した場合でもよかったりするようになっている。観光と文化芸術が連携していくことが、大きな国の政策にはなりつつあると感じている。今言われたような、観光含めたウォーキングに関しては、若い人だけでなく、高齢者にもニーズが拡大してきているのではないかと思う。</p> <p>それから、文化芸術基本法では文化芸術の定義がものすごく広い。例えば、ゲームを作る人、イラストレーター、或いはユーチューバーまで、法律は視野に入れていると思うので、若い世代からすると、そういう新しいところで茨木市に住むスターが生まれてくれば、随分違った影響があるのではないかと思う。それから、文化芸術に農林業も連携希望という回答が結構あるので、本当に幅広く柔軟にお考えいただいて、文化振興ビジョンに結びつけていただければと思う。</p> <p>平田委員、最後にいかがか。</p> <p>最後の話だが、今年は島崎藤村生誕150周年で、小諸市が大きなキャンペーンを打った。その中で、YouTubeの中でアバターを使って作品を作るVtuberの有名な方に、島崎藤村の有名な和歌集をもとにした楽曲を作ってもらったところ、聖地巡礼ということで若い人たちが殺到している。川端康成を新しいメディアで再生させるとか、川端先生は著作権上、上演許可をとるのが難しいと言われているが、茨木市ではできるかもしれないので、茨木市の強みを使うと良いと思う。</p> <p>また、外様で仕事を請け負う側の意見として聞いてもらいたいのが、先ほどの埼玉ゴールドシアターの例については、蜷川幸雄が始めた高齢者による本格的な創造活動である。お年寄りの楽しみのレベルではなく、とても高い料金を取って見せる作品を作る活動である。今日繰り返し言っているが、そこまで踏み込むのか、これまでの公民館活動の延長として、余暇活動としてやるのか。どちらも大事だと思うが、芸術家サイドとしてはどちらかに決めていただかないとお手伝いのしようがない。市民は芸術家に発注する立場になる。プロ野球に例えると、市民はオーナーで、ゼネラルマネージャーが文化振興財団、私たちは優勝請負人の監督になる。関係をご理解いただいて、「おにクル」でどんなものを作っていくのかを考えてもらえればと思う。</p>
出口委員長	<p>ありがとうございます。非常に明確になったと思う。</p>
原田委員	<p>芸術監督を配置するなどについては、今回の指定管理者選定の要項に入っているのか。</p>

議 事 の 経 過	
発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
川寄文化振興課政策係長	入っていない。
雨森委員	芸術監督でなくとも、専門性を持った専門家を置くというのは入っているのか。
川寄文化振興課政策係長	人材配置について、どういった配置をするのかというところを見て審査することになる。
原田委員	要項については、市のホームページで見られるのか。
川寄文化振興課政策係長	見ることができる。
出口委員長	<p>いずれにしても、従来アーティストというのは、若い頃から鍛錬を積んだ方が普通だったが、近年私の同級生でも、人生90年時代で人生二毛作として、アーティストになるような方も出てきている。</p> <p>専門家から見ると、水準が違うのかもしれないが、いろんな可能性がある中で、公民館ではないというのは、確かにその通りだと思うので、いろんな可能性を発展させながら、新しい起爆剤になってもらえたらと思う。</p> <p>大体時間も近くなってきたが、最後にどうしてもこれを言いたいということはあるか。</p>
飯嶋委員	<p>前回の議事録を読むと、小学校、中学校を卒業するまでに一度は音楽鑑賞会を経験してはという意見があり、私も良いと思った。私自身が、中学の時に初めてオーケストラを学校挙げて、近くの高校まで聞きに行った時に、非常に衝撃を受け、それが今に繋がっている。小学生、中学生の間に現場で音楽の力を浴びることがとても大事だと思うので、20年、30年と続いていくようなことになるとすばらしいと思う。</p> <p>これを市で行っているのは、調べていないが、そうたくさんはないと思う。大阪市で一時、フェスティバルホールを借りて、4校ぐらいを募集して、3日間ぐらいやったことがあった。子供たちはもう、40代、50代になっていると思うが、きっといい思い出になっていると思う。ぜひ実現できたらと思う。</p>
出口委員長	ありがとうございます。私自身も小学校の時演劇見たが、この歳になってもすご

議 事 の 経 過	
発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
飯嶋委員	<p>く鮮明に覚えている。</p> <p>現場の学校の先生も、やれと言われると、どうしても反発したくなることもあろうかと思うので、体験談を芸術団体の方がどんどん発言したり、まとめたりすると、すごくいいと思う。</p> <p>文化振興財団との提携で、その小・中学校を対象にした音楽家紹介というものを数年前に立ち上げて、校長会の方に話をかけており、もう5・6年になるが一向に反応がない。</p> <p>なぜなのかが分からないが、学校の授業が詰まっっていて、そこに音楽を入れると、もう授業が成り立たなくなるようになっていっているのではと思うので、夏休みに入る前、春休みに入る前でもいいので、これはもうすぐにでもできることなので、できたらいいと思っている。</p>
出口委員長	<p>3 その他</p> <p>これで本日の審議は終了とする。</p> <p>事務局から何か連絡事項はあるか。</p>
今西文化振興課長	<p>2点、連絡事項がある。まず1点目は、本日の会議録についてである。後日、メールまたは郵送にてお送りさせていただき、内容を委員の皆様にご確認いただいた後に公開させていただく。</p> <p>また、2点目だが、次回の本委員会の開催日程については、先ほどスケジュールの説明した通り、12月中旬以降を予定している。また事務局から連絡をするが、このような予定で考えているので、よろしく願います。</p>
出口委員長	<p>それでは本日の会議は、これをもって終了とする。</p>